



## 2021年冬季ボーナスアンケート調査（宮崎県内）

当研究所は、宮崎県内における消費動向や生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。今回、県内の給与所得者を対象にインターネットアンケートによる冬季ボーナス調査を実施し、結果をまとめた。

### 【調査結果の概要】

1. 冬季ボーナスは、全体の69.0%が「支給される」と回答し、増減見込みは「減りそう」が24.9%に低下したものの、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）の感染拡大前（2019年）の状況まで回復しきれていない。
2. ボーナスの見込み額は、「10万円以上30万円未満（42.1%）」が最も多い。
3. 使いみちは「貯蓄（70.6%）」が最多で、貯蓄の目的は「老後の生活」「病気・災害への備え」が42.0%と同率で、貯蓄の方法は「流動性預貯金（52.2%）」が最も多い。
4. ローン返済は、「自動車（47.8%）」が最も多い。
5. ボーナスでの購入予定品は、「衣料品（55.5%）」に次いで「靴・バッグ類（32.0%）」が多く、買物予定先は「通販・ネット販売（54.7%）」が最多だった。県外買物予定地は、九州5市（注1）の中で「大分市（41.2%）」が最も多い。
6. 品目別物価状況DI（注2）は「食品（生鮮食品を除く）（+55.0）」が最も高い。
7. 今後の旅行・レジャーの予定先は、「九州内（70.5%）」が最も多い。
8. コロナによる買物の変化では「マスクは必ず着用している（68.8%）」が最多で、「ジモ・ミヤ・タビキャンペーン」の利用では、「利用の予定はない」が46.8%で「利用した」「利用を検討する」等を合わせた“前向き”な回答も多かった。
9. 生活状況は「変わらない（65.4%）」が最も多く、DI（注3）は「▲10.6」と前年比16.8ポイント（以下「P」）改善したものの、依然マイナスの状態にある。

注1）福岡市、北九州市、大分市、熊本市、鹿児島市の5市

注2）物価が前年より「高い割合」-「安い割合」

注3）生活が前年より「良くなった割合」-「悪くなった割合」

### 調査の実施要領

調査時期：2021年11月17日（水）～11月24日（水）

調査対象：宮崎県内の給与所得者

調査方法：インターネットアンケート [(株)マクロミル]

回答者数：523名

### 回答者の属性（単位：人、%）

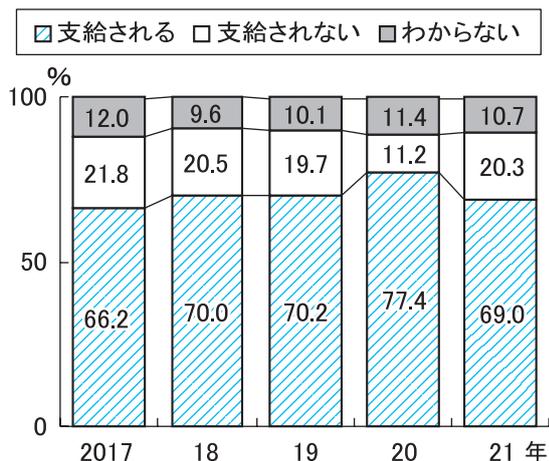
年代別	人数	構成比	世帯別	人数	構成比	性別	人数	構成比	職業	人数	構成比	
20歳代以下	126	24.1	独身	239	45.7	男性	261	49.9	会社員	456	87.2	
30歳代	135	25.8	既婚	子供有り	230	44.0	女性	262	50.1	公務員	67	12.8
40歳代	132	25.2		子供無し	54	10.3	合計	523	100.0	合計	523	100.0
50歳代以上	130	24.9	合計	523	100.0							
合計	523	100.0										

## 1. ボーナス支給の有無と増減見込み

### (1) 「支給される」が69.0%

今冬のボーナスは、「支給される」が69.0%と最多であるが、「支給されない」は20.3%と前年（11.2%）より9.1P上昇した（図1）。

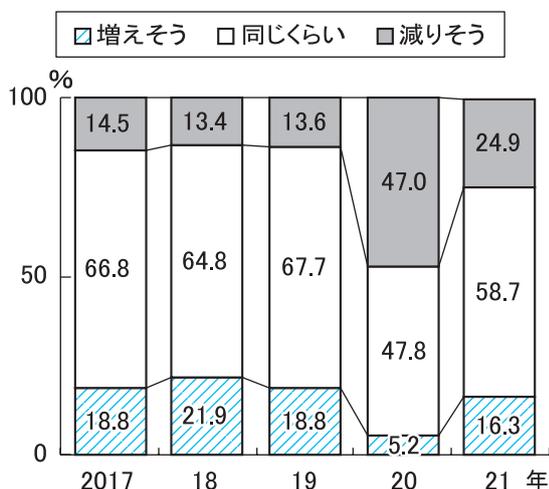
図1. 冬季ボーナス支給の有無



### (2) 増減見込みは「減りそう」が低下

ボーナスの増減見込みは、「減りそう（24.9%）」が前年比22.1P低下し、「同じくらい（58.7%）」「増えそう（16.3%）」は前年より上昇したものの、コロナの感染拡大前（2019年）まで回復しきれていない。

図2. 冬季ボーナスの増減見込みの推移



## 2. ボーナスの見込み額

### 「10万円以上30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満（42.1%）」が最も多かった（図3）。

会社員は、「10万円～30万円未満（47.7%）」が最も多く、前年比18.8P上昇し、支給額“50万円以上”は前年より低下した（表1）。

図3. ボーナスの見込み額

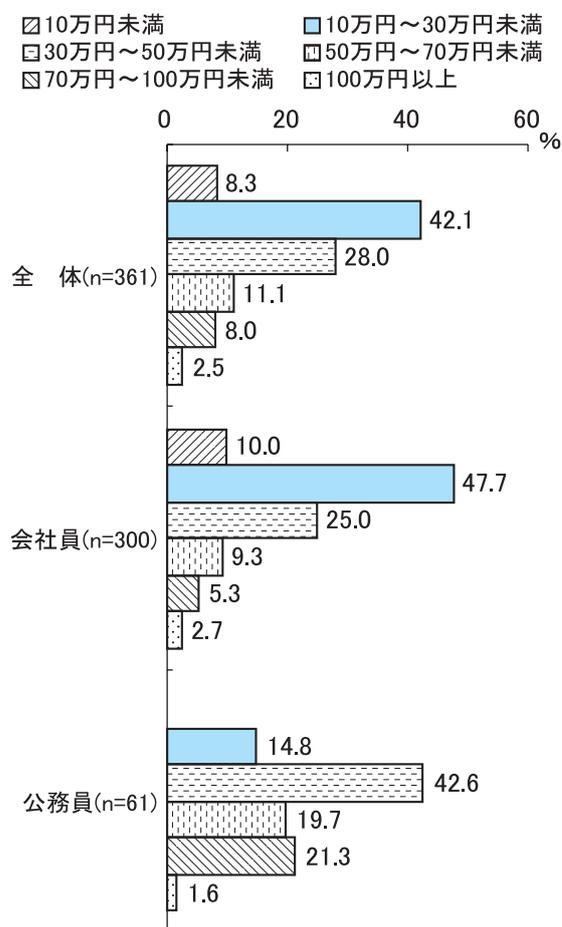


表1. 会社員の見込み額

(単位: %、P)

	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～70万円未満	70万円～100万円未満	100万円以上
2021年	10.0	47.7	25.0	9.3	5.3	2.7
2020年	3.7	28.9	19.1	19.1	20.9	8.3
前年比	6.3	18.8	5.9	▲9.8	▲15.6	▲5.6

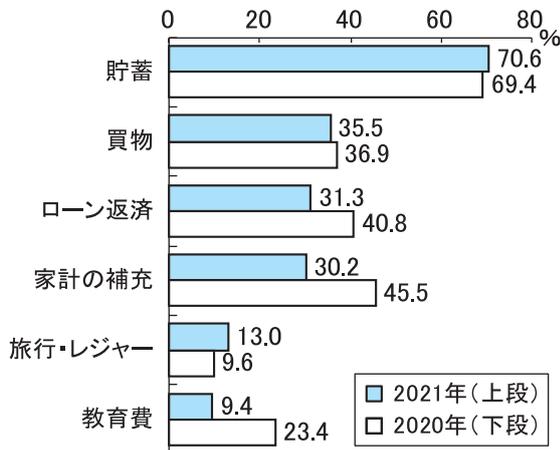
### 3. ボーナスの使いみち(複数回答)

#### 「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは、「貯蓄(70.6%)」が最も多く、「買物(35.5%)」「ローン返済(31.3%)」「家計の補充(30.2%)」と続いた(図4)。

前年より「家計の補充(▲15.3 P)」「教育費(▲14.0 P)」「ローン返済(▲9.5 P)」等が低下し、「旅行・レジャー(+3.4 P)」は上昇した。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



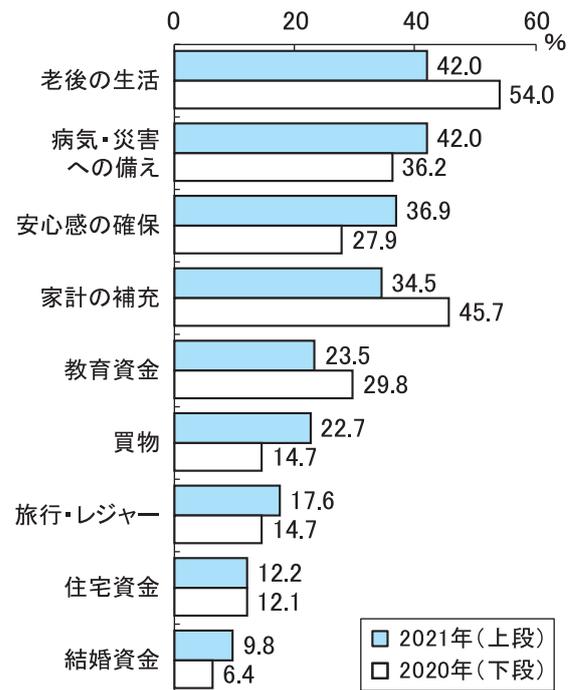
### 4. 貯蓄

#### (1) 貯蓄の目的(複数回答)

##### 「老後の生活」が最多

貯蓄の主な目的は、「老後の生活」「病気・災害への備え」が42.0%と同率になり、「安心感の確保(36.9%)」と続いた(図5)。前年比では、「安心感の確保(+9.0 P)」「買物(+8.0 P)」「病気・災害への備え(+5.8 P)」等が上昇した一方、「老後の生活(▲12.0 P)」「家計の補充(▲11.2 P)」「教育資金(▲6.3 P)」は低下した。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)

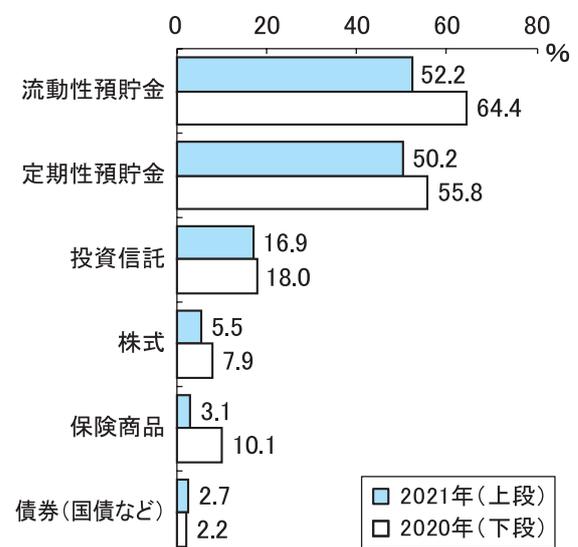


#### (2) 貯蓄の方法(複数回答)

##### 「流動性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、「流動性預貯金(52.2%)」「定期性預貯金(50.2%)」の回答が多かった(図6)。「債券(国債など)」を除く全ての貯蓄方法で、それぞれ前年を下回り、「流動性預貯金」「定期性預貯金」「保険商品」の低下が目立った。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



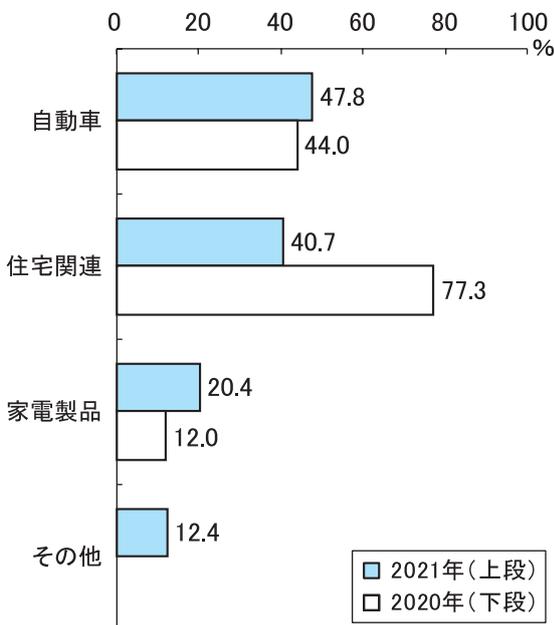
## 5. 「ローン返済」(複数回答)

### 「住宅関連」「自動車」が二大項目

ローン返済は、「自動車(47.8%)」「住宅関連(40.7%)」の回答が上位を占めた(図7)。

前年と比べて「住宅関連」が36.6P低下し、「自動車」は3.8P上昇して、順位が入れ替わった。

図7. ローン返済予定の内容(複数回答)



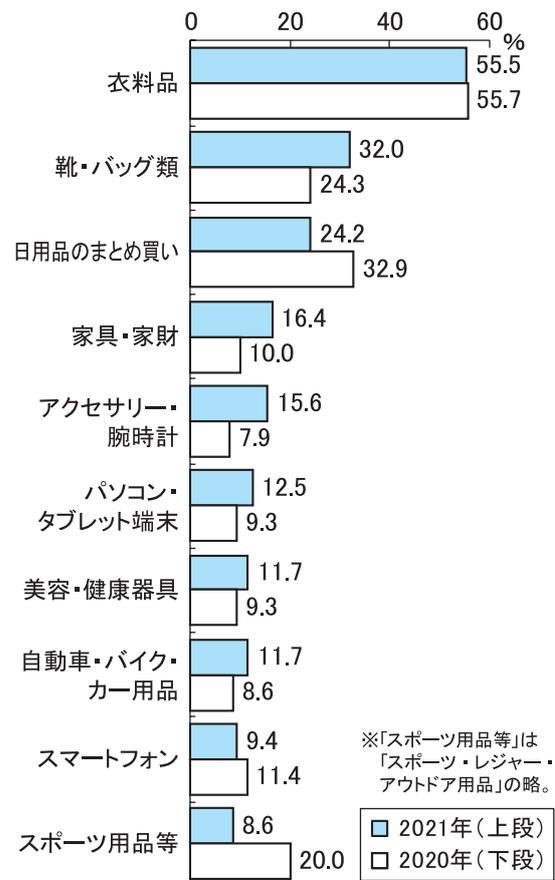
## 6. 「買物」

### (1) 購入予定品(複数回答)

#### 「衣料品」が最多

購入予定品は、「衣料品(55.5%)」が最も多く、「靴・バッグ類(32.0%)」「日用品のまとめ買い(24.2%)」と続いた(図8)。前年比では「靴・バッグ類(+7.7P)」「アクセサリ・腕時計(+7.7P)」「家具・家財(+6.4P)」が上昇した一方、「スポーツ用品等(▲11.4P)」「日用品のまとめ買い(▲8.7P)」は低下した。

図8. 購入予定品(複数回答)



### (2) 買物予定先の店舗形態(複数回答)

#### 「通販・ネット販売」がトップ

買物予定先を店舗の形態別で見ると、全体では「通販・ネット販売(54.7%)」が最も多く、「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(46.9%)」「デパート(25.8%)」となり、全ての店舗形態で前年を下回る結果となった(次頁表2)。

居住地別では、3市とも「通販・ネット販売」が過半数を占めたが、宮崎市は「SC(60.0%)」がトップで、前年比2.7P上昇した。都城市、延岡市は「通販・ネット販売」が最も多いものの、それぞれ前年を下回った。都城市は「SC(同▲46.5P)」の低下が目立った。

表2. 買物予定先の店舗形態(複数回答)

(単位:%)

買物先 居住地	通販・ ネット販売	SC (大型店)	デパート	量販店	ホーム センター
全 体	54.7	46.9	25.8	25.8	19.5
	61.0	57.4	28.4	29.8	26.2
宮崎市	51.1	60.0	31.1	24.4	24.4
	57.3	57.3	31.7	37.8	25.6
都城市	59.1	22.7	27.3	31.8	22.7
	69.2	69.2	30.8	30.8	23.1
延岡市	63.2	31.6	26.3	31.6	15.8
	83.3	50.0	16.7	-	50.0

回答者数 128人

※上段:2021年 下段:2020年

### (3) 買物予定地(複数回答)

「小林地区」「日南地区」を除く全ての地区で、買物予定地を地元とする回答が最も多く、「日南地区」「小林地区」は宮崎市が最も多かった(表3)。

県外は「延岡地区(17.1%)」が最も多く、「小林地区(14.3%)」「都城地区(13.0%)」と続いた。前年比では「宮崎地区」「日南地区」で上昇し、「都城地区」「延岡地区」「小林地区」は低下した。

※ 地区名と居住地内訳

宮崎地区	宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡
都城地区	都城市、北諸県郡
延岡地区	延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡
日南地区	日南市、串間市
小林地区	小林市、えびの市、西諸県郡

表3. 買物予定地(複数回答、居住地別)

(単位:%)

買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県外
宮崎地区	96.3	5.6	1.9	-	-	9.3
	96.1	2.0	-	2.0	-	7.8
都城地区	30.4	91.3	-	-	-	13.0
	80.0	93.3	-	-	-	26.7
延岡地区	34.3	-	60.0	-	-	17.1
	35.7	-	64.3	-	-	28.6
日南地区	77.8	22.2	-	44.4	-	11.1
	100.0	80.0	-	100.0	-	-
小林地区	85.7	57.1	-	-	71.4	14.3
	80.0	60.0	-	-	60.0	20.0

回答者数 128人

※上段:2021年 下段:2020年

### (4) 県外での買物予定地(複数回答)

県外での買物予定地は、「大分市(41.2%)」が最も多く、「鹿児島市」「熊本市」が同率(29.4%)で並んだ(表4)。

前年比では、「大分市」「熊本市」が上昇した一方、「鹿児島市」は低下するなど県外への移動に変化がみられた。

表4. 県外での買物予定地(複数回答)(単位:%)

年	大分市	鹿児島市	熊本市	福岡市	北九州市
2021年	41.2	29.4	29.4	23.5	-
2020年	29.4	47.1	17.6	23.5	-

回答者数 17人

## 7. 最近の県外での買物動向

### (1) 買物頻度

最近1年間で九州5市へ買物に行った頻度は、全ての市で「1回」の回答が最も多かった(表5)。

全ての市で「2~4回」の頻度が、前年を下回った。

表5. 県外での買物頻度(複数回答)(単位:%)

頻度	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
1回	5.4	2.3	7.6	5.0	8.0
	13.0	2.2	8.8	9.0	13.8
2~4回	4.2	0.6	5.0	3.6	5.2
	6.6	1.6	6.6	5.2	9.8
5~9回	0.6	0.8	1.9	1.3	1.9
	1.4	-	1.0	0.8	1.4
10回以上	1.0	0.4	1.3	1.0	1.1
	0.8	0.2	0.4	0.6	1.4

※上段:2021年 下段:2020年

### (2) 交通手段

県外主要5市への交通手段では、全ての市で「乗用車」が最も多い(次頁表6)。

前年比では、福岡市、北九州市で「高速バス」が上昇し、「B&S」は低下した。

表6. 県外主要5市への交通手段（複数回答）

交通手段	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
乗用車	60.3	47.6	89.2	82.5	88.2
	58.0	76.2	91.3	89.7	91.7
高速バス	22.4	23.8	3.6	5.3	2.4
	14.3	4.8	3.8	9.0	0.8
JR	6.9	9.5	6.0	10.5	9.4
	2.7	4.8	5.0	1.3	7.6
飛行機	5.2	14.3	-	-	-
	13.4	4.8	-	-	-
B&S(※)	5.2	4.8	-	-	-
	11.6	9.5	-	-	-

※上段:2021年 下段:2020年

※「B & Sみやざき」の略称。Bus & Shinkansenの頭文字で、博多駅～新八代駅(熊本)～宮崎駅間を新幹線と高速バスで運行する

## 8. 現在の物価状況

現在と前年の物価を比較した品目別状況は、全品目で「高い」が「安い」を上回る結果となった(表7)。

品目別の物価状況DIでは、「食品(生鮮食品を除く)(+55.0)」が最も高く、前年比16.8P上昇した。「交通費(+39.5)」は同27.9P上昇し、燃油価格の上昇が影響していると考えられる。

表7. 品目別物価状況 (単位:%、P)

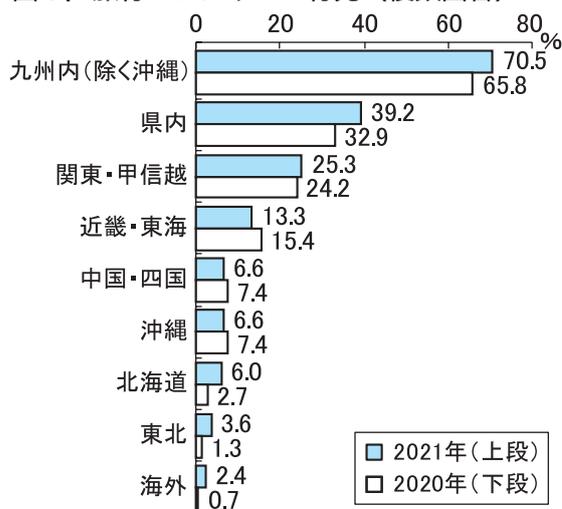
品目	物価			DI(A)	前年(B)	前年比A-B
	高い	不変	安い			
食品(生鮮食品を除く)	58.7	37.7	3.7	55.0	38.2	16.8
光熱水道費	46.3	48.4	5.3	41.0	28.8	12.2
交通費	47.8	43.9	8.3	39.5	11.6	27.9
日用品	33.8	62.4	3.7	30.1	20.2	9.9
耐久消費財	32.2	65.4	2.4	29.8	22.0	7.8
嗜好品(酒等)	33.1	56.3	10.6	22.5	23.4	▲0.9
医療費	26.7	64.6	8.7	18.0	18.4	▲0.4
保険料	23.3	70.6	6.1	17.2	18.8	▲1.6
教育費	18.8	75.5	5.7	13.1	19.2	▲6.1
住居費	15.1	80.9	4.0	11.1	6.6	4.5
家具・家事用品	19.6	70.9	9.5	10.1	7.0	3.1
通信費	23.3	61.1	15.6	7.7	23.6	▲15.9
娯楽・趣味	23.8	56.4	19.8	4.0	1.8	2.2
外食費	28.8	42.9	28.4	0.4	0.0	0.4
被服・履物	16.3	67.7	15.9	0.4	▲3.8	4.2

## 9. 今後の旅行・レジャー(複数回答)

今後の旅行・レジャーの行先は、「九州内(70.5%)」が最も多く、「県内(39.2%)」「関東・甲信越(25.3%)」となった(図9)。

前年比では「県内(+6.3P)」「九州内(+4.7P)」の上昇が目立ち、10月に開始した旅行・買物支援事業(ジモ・ミヤ・タビキャンペーン)や2022年に再開が見込まれる国内旅行代金の補助事業(GoToトラベルキャンペーン)に期待がかかる。

図9. 旅行・レジャーの行先(複数回答)



回答者数 166人

## 10. コロナ禍の買物・旅行の状況

コロナ禍の買物の変化では「マスクは必ず着用している(68.8%)」が最も多い(次頁図10)。

前回調査(2021年夏季)より回答割合は総じて低下し、「短時間で買物を済ませるようになった(▲8.4P)」「混雑を避けて買物をするようになった(▲8.0P)」の低下が目立った。

旅行・買物支援事業(ジモ・ミヤ・タビキャンペーン)の利用では、「利用の予定はない(46.8%)」が最も多いものの、「すでに利用した」「予約をした」「検討をしている」等を合わせた“前向き”な回答も多かった(次頁図11)。

図 10. コロナ禍の買物の変化

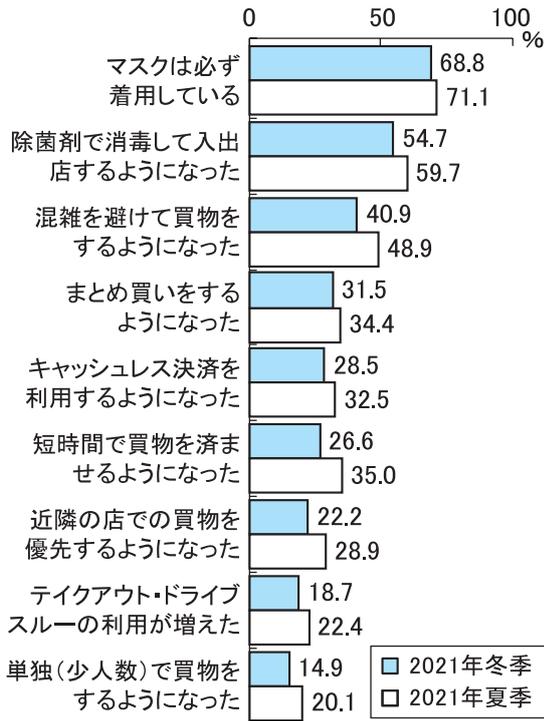
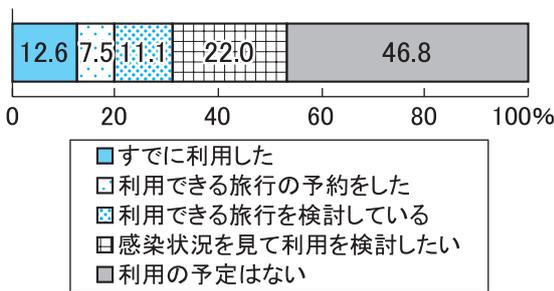


図 11. 「ジモ・ミヤ・タビキャンペーン」の利用状況



## 11. 現在の生活状況

### 全体では「変わらない」が65.4%

全体では、前年より「変わらない」が65.4%と最も多く、「良くなった」は12.0%、「悪くなった」が22.6%で生活状況DIは▲10.6となった(表8、図12)。

個別の生活状況は、「レジャー・余暇等」のDIが▲23.5で、前年比+26.9Pと回復の兆しがあるものの、34.0%が「悪くなった」と回答しており、コロナの感染拡大前のレベルまでは持ち直していない。

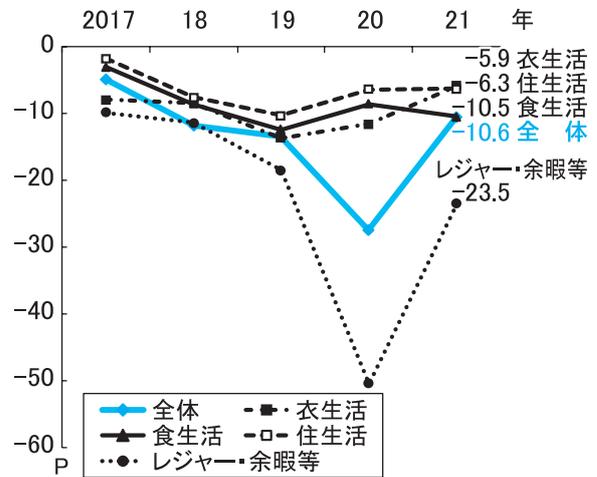
表 8. 現在の生活状況

(単位:%、P)

生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	DI
全体	12.0	65.4	22.6	▲10.6
衣生活	6.4	59.8	33.8	▲27.4
食生活	6.9	80.3	12.8	▲5.9
住生活	3.2	82.0	14.8	▲11.6
レジャー・余暇等	10.5	68.5	21.0	▲10.5
	8.6	74.2	17.2	▲8.6
	6.7	80.3	13.0	▲6.3
	5.2	83.2	11.6	▲6.4
	10.5	55.4	34.0	▲23.5
	4.8	40.0	55.2	▲50.4

※上段:2021年 下段:2020年

図 12. 生活状況DIの推移



## 12. まとめ

今回の調査では、ボーナスが依然として厳しい状況にある中、使いみちは「老後の生活」「病気・災害への備え」を目的に貯蓄する回答が多かった。

買物では衣料品、靴、バッグなど、コロナの感染状況の落ち着きから、外出志向の商品が増えた。生活状況DIは前年の落ち込みから上昇に転じているものの、依然厳しい状況がみられた。

今後とも、コロナの感染状況に気を配りながら、ボーナスの使いみちは慎重になると予想される。(勝池)